

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R7 年 3 月 11 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスOHANA

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%		クールダウンスペースやパーテーションを使い落ち着ける空間を提供しています。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%		人員配置基準、理学療法士を配置しております。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	25%	0%		活動室、トイレ等バリアフリー化しており、車いすが利用出来る様にしてあります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%		PDCAサークルを心掛け、職員会議・終礼等で情報共有を行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		保護者向け評価表を活用し、保護者の意向や把握に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%		リタリコ発達ナビで公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	0%	100%		必要に応じて実施を検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%		社内研修の実施、社外研修への参加を積極的に参加しています。資格取得にも頑張っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		契約を行う際にニーズ等をお聞きして課題を決めています。相談事業所とは関係者会議で情報共有を行い、必要なニーズを把握させてもらい、計画書を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%		個々の適応行動把握の為、アセスメントツールを使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%		学習、運動など様々な活動内容をニーズに沿って提供しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		毎月、社外活動・季節イベント・工作など特性に合わせた活動を提供しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%		日々活動内容を職員間で協議し、個々の状況を確認しながら提供を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		個別指導や集団指導を組み合わせ、個々の状況を考慮し計画を作成しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%		前日の終礼内容に加え、当日見通しボードで予定を掲示しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%		その日の終礼で職員共有を行い、日々個々の内容をデーターに入力して次の支援に繋げています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%		毎日、支援記録をデーターに入力し、職員間で振り返りを行い、支援改善に繋げています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%		年に2回モニタリングを実施し、見直しを行っています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	0%		ガイドラインに沿った支援を提供し、支援を行っています。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	管理者、児童発達支援管理責任者、担当職員が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	電話、関係者会議等で連携を取り、支援を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	0%	現在、医療的ケアが必要な児童の利用がないが、必要となって来た時は、連携体制を整えます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%	0%	相談支援を含め、支援内容の情報共有に努め、連携を図っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	相談支援を含め、支援内容の情報共有に努め、連携を図っていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	外部研修にも積極的に参加し、専門機関との連携を図っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	0%	児童クラブ・児童館については、今後は検討していきます。事業所の夏祭り、運動会等に障害のない児童を招待しています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	0%	現状は行っていないが、今後は検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎時、LINEアプリ等を活用し情報共有を行っています。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	0%	必要な保護者に対して、保護者に寄り添った支援の提供を行っています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時にご理解いただけるように、説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	送迎時、電話、LINE等からの相談にいつでも対応出来るように、体制を整えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	0%	年2回～3回親子レクリエーションの後に、親子相談会を開催しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	ご相談いただけるよう体制を整えています。また、状況に応じて家庭訪問を行い支援をしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	毎月の活動カレンダー配布、3ヶ月毎に広報誌発行しております。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	書庫への保管、4か所に監視カメラ設置しております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	視覚からの伝達方法を工夫したり、意思疎通ができるまで寄り添った配慮を実施しております。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	0%	開所半年な為、行事等に招待できませんでした。次年度招待する計画を立てております。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	各マニュアルを作成し定期的に研修を行っています。緊急時にも迅速に対応できるように訓練も実施しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	年4回、各災害に対して研修や訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	虐待防止研修、社内研修(オンライン含む)にて共有しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	利用契約の際に身体拘束をするようなケース(場面など)についての説明を保護者の方へ説明し、同意書を頂いています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	保護者との情報共有を基に対応を行っています。子供達にも食物アレルギーについての説明を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	事故や怪我等を未然に防ぐ努力をしています。